

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書														
通番	事務事業名称	違反広告物除却活動					所管部署	課名 環境政策課						
(ア) 総合計画上の位置づけ														
施策	番号	施策名			展開方向	番号	展開方向名							
	1-2	環境保全の推進				1	環境保全・美化活動の推進							
(イ) 実施内容・体制														
協働する相手		違反広告物追放登録員(広陵町赤十字奉仕団、更生保護女性会、コスモス会)												
協働実施手法		2-2 共催												
具体的な対象	違反広告物追放推進団体として認定しているボランティア3団体として広陵町赤十字奉仕団、更生保護女性会、コスモス会の違反広告物追放登録員						⑨対象者の母数	34人						
目的・期待成果	町内全域の電柱や公共施設に無許可で掲示されている違反広告物を撤去し、地域景観の保全、青少年の健全な育成を図る。													
事業内容	ボランティアが主体となって町内の違反広告物を撤去する。(奇数月は2回、偶数月は1回(ただし、4月は除く))													
(ウ) 事業費														
事業費(決算(見込)額・予算額)				単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性	
				千円		5		5		3		3	維持	
今後の方針		継続			拡大・縮小・廃止の理由									

令和 6 年度 事業評価						参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価			
5	4	3	2	1		目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開・透明性	評価・見直し	相互変革			
					とでもできた	それなりにできた	どちらでもなかった	あまりできなかった	全然できなかった						
						5	3	3	5	3	3	3	5	3	
						合計							29	25	
総合評価						A評価	B評価	C評価	D評価	E評価					
						35~26	25~21	20~16	15~11	10以下	A B				

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	地道な除却活動の結果、違反広告物はかなり減っている。活動実施した際も、違反広告物を見かけない時もあるくらいである。	町の景観をきれいに維持できている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	違反広告物は完全には無くならないので、今後も新たな違反広告物の除却に対応していく。	今後も地道に活動を続けていく。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書														
通番	事務事業 名称	環境保全指導員				所管部 署	課名 環境政策課							
(ア) 総合計画上の位置づけ														
施策	番号	施策名			展開 方向	番号	展開方向名							
	1-2	環境保全の推進				1	環境保全・美化活動の推進							
(イ) 実施内容・体制														
協働する相手		環境保全指導員												
協働実施手法		2-2 共催												
協働者 具 体的 な	町長が任命した広陵町環境保全指導員						協働者 の 数	15人						
目的・ 期待 成果	環境破壊のおそれがあるときは町長に報告する。また、地域の良好な環境のため、助言や指導を行い環境の保全を図る。													
事業 内容	年1回程度、活動報告等についての会議を開催。また、隔年で研修会を実施。 令和2年度以降はコロナ禍により実施できていなかったが、令和6年度から再開している。 また、指導員は、違反広告物除却活動も行っている。													
(ウ) 事業費														
事業費(決算(見込)額・予算額)				単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性	
				千円		270		270		270		270	維持	
今後の方針		継続		拡大・縮小・廃止の理由										

令和 6 年度 事業評価						参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価		
5	4	3	2	1		目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開 ・透明性	評価・見直し	相互変革	合計	総合評価
					と て も で き た	そ れ な り に で き た	あ ま り で き な か つ た	全 然 で き な か つ た						
						協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	3
													3	3
													3	3
													3	3
													3	3
													21	22
													B	B

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	地域での「良好な環境づくり」に対する指導・助言を行えるよう同行している。	町又は他の公共団体が主催する良好な環境づくり事業、又は、環境に関する行事に積極的に参加、協力していく。
協働することで感じた課題や今後の方向性	良好な環境づくりの推進に努める。	今後も地域の環境づくりに対する指導・助言を続けていく。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書												
通番	事務事業名称	広陵町空家等対策協議会					所管部署	課名 環境政策課				
(ア) 総合計画上の位置づけ												
施策	番号	施策名			展開方向	番号	展開方向名					
	2-2	良好な住環境の保全・形成				2	空き家等の発生抑制・適正管理の推進					
(イ) 実施内容・体制												
協働する相手		広陵町空家等対策協議会委員										
協働実施手法		3-1 審議会、策定委員会等										
具 体 的 な 対 象	①地域住民 ②法務、不動産、建築、福祉、文化等に関する識見を有する者 ③その他町長が適当と認める者							⑨ 母 数	14人			
目 的 ・ 期 待	空家法に規定する空家等対策計画の作成及び変更並びに当該計画に基づく施策の実施、特定空家等の認定及びその措置に関する事について協議し、各種施策を推進する。											
事 業 内 容	必要に応じ協議会を開催し、特定空家の認定や、町の施策についての意見聴取など。											
(ウ) 事業費												
事業費(決算(見込)額・予算額)			単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性
			千円		33		46		42		215	維持
今後の方針		継続	拡大・縮小・廃止の理由									

令和 6 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1				
と も で き な か た ど ち ら で き な か た	そ れ な り に で き な か た	あ ま り で き な か た	全 然 で き な か た	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	4	
				対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	3.5	
				自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5	4	
				相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	5	3.5	
				情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	5	3	
				評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	3	
				相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	5	3.5	
合 計						32	24.5	
総合評価		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価		
		35~26	25~21	20~16	15~11	10以下	A B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	管理不全空き家について、法務、建築など多方向からの意見を聞くことができた。	行政の執る施策、空き家の現状について知ることができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	空き家問題の課題解決には多くの時間を要する。特に、本協議会で取り上げるような危険視すべき案件は、多くの関係者及び関係機関との折衝が必要になることから、通常よりも問題が長期化する。今後は、全庁的に課題感をもって、連携していく必要があると感じた。	空き家問題を解決するためには、予防策を講じることが不可欠。環境政策課だけでは対策を講じることができないと推測できるので、全庁的な対応をお願いしたい。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書											
通番	事務事業名称	広陵金明太鼓保存会					所管部署	課名 産業総合支援課			
(ア) 総合計画上の位置づけ											
施策	番号	施策名				展開方向	番号	展開方向名			
	5-4	文化芸術の振興と文化財の保存・活用					1	文化芸術の振興			
(イ) 実施内容・体制											
協働する相手		広陵金明太鼓鼓手の会									
協働実施手法		1-2 補助金									
協働者	具体的な協働者	広陵金明太鼓鼓手の会						⑨ 母数	18 (内、休会中 7)		
成果・期待	目的	迫力のある太鼓を活かした演奏とともに地域おこしの活動を行う「広陵金明太鼓」を、広陵町の郷土芸能として位置づけ、広く町民の手によって伝承・保存されることを推進していく。									
事業内容	内容	(1) 鼓手の募集及び育成 ①出演イベントでのチラシ配布 ②出演イベントでのブース出展 (2) 技術鍛錬及び各種研究・研修 ①「技術鍛錬」として週2回(火・木曜日) ②各種研究・研修の実施及び参加 (3) 地域振興活動への参加及び出演									
(ウ) 事業費											
事業費(決算(見込)額・予算額)		単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性
		千円		327		377		888		500	維持
今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由 活動の伝承・保存を目的としているため。									

令和 6 年度 事業評価						参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価	
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。					3	3
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。					2	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。					3	3
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。					3	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。					3	3
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。					2	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。					3	3
						合 計					19	22	
総合評価						A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	C	B	
						35~26	25~21	20~16	15~11	10以下			

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	毎年決まった依頼がいただけている状態であり、広陵町の名前に町民や町外の人の目に触れる機会の創出には繋がっている。また、行政の各種行事に於いても、象徴的なコンテンツとして機能している。	6年度は新しい御依頼先もあり、今後も様々な地域からお声がかかるように積極的に声掛けしていく。 30周年コンサートでは沢山の方に来て頂き、無事アクセントもなく終えることができ 役場の皆さんにも感謝している。
協働することで感じた課題や今後の方向性	依頼元が固定化されており、行政関係の出演依頼も多い状態で、新規依頼の開拓が進んでいない。また、情報発信が不十分であり、知名度や親近感の醸成ができておらず、鼓手の減少にも繋がっている。	出演料の振込日時の連絡をしてほしい。 いつ振り込まれたのか、まとめたの振り込まれたのか等何の振込かわからなくなったり、振込額が間違っていたりする。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書												
通番	事務事業名称	令和5年度広陵町パークゴルフ場指定管理業務委託	所管部署	課名 都市整備課								
(ア) 総合計画上の位置づけ												
施策番号	施策名		展開方向	番号	展開方向名							
5-3	スポーツの振興			2	スポーツ施設の適正管理・有効活用の推進							
(イ) 実施内容・体制												
協働する相手		指定管理者										
協働実施手法		1-1 委託										
具体的な協働者	株式会社ハウスビルシステム(広陵町内のパークゴルフ 3箇所の管理運営)						⑨協働者の母数	1社				
目的・期待成果	広陵町が整備したパークゴルフ場の利用者の利便性向上と施設の適切な維持管理および運営により、誰もが快適にスポーツを楽しめる環境を整える。											
事業内容	指定管理者制度により、管理・運営を委託 令和5年度～令和9年度までの5年間											
(ウ) 事業費												
事業費(決算(見込)額・予算額)			単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性
			千円		1,900		1,900		1,800		1,800	維持
今後の方針		継続	拡大・縮小・廃止の理由									

令和 6 年度 事業評価						参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価			
5	4	3	2	1		目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開・透明性	評価・見直し	相互変革			
					とでもできた	それなりにできた	どちらでもない	あまりできなかった	全然できなかった						
						4	5	4	4	4	3	4	4	4	4
						合 計							28	28	
総合評価						A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下				A	A

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	町内町外問わず利用者が訪れ、スポーツを楽しむ環境を提供している。芝管理について、利用者から高い評価を受けている。	利用者様から役場に寄せられたお声が連携され、練習場の草刈りなどの品質向上や顧客満足度アップに役立っている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	施設の利用者はコロナ禍でピークとなり、以後減少傾向にある。今後新規客獲得に向けた方策の検討が必要である。	利用者数が減少傾向にあることを共有し、新規利用者の集客向上に向けた施策を継続して検討していくことが課題である。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書													
通番	事務事業 名称	広陵町有線放送設備設置事業に係る補 助金	所管部 署	課名 生涯学習課									
(ア) 総合計画上の位置づけ													
施策 番号	施策名		展開 方向	番号	展開方向名								
5-2	地域コミュニティの育成		2	コミュニティ施設の充実									
(イ) 実施内容・体制													
協働する相手		有線放送設備を維持管理する区・自治会											
協働実施手法		1-2 補助金											
具 体 的 な 対 象	有線放送設備を維持管理する区・自治会						⑨ 母 数 の 対 象 者 の	8,422世帯 (R7.3末在来地区 世帯数)					
目 的 ・ 期 待	有線放送設備を設置又は老朽化した設備を更新することにより、大字内での情報共有を図るとともに、災害時における緊急情報の伝達にも活用することができる。												
事 業 内 容	有線放送設備設置に要する5万円を越える機器設備費及び配線材料工事費の4分の1以内の額(上限100万円)												
(ウ) 事業費													
事業費(決算(見込)額・予算額)			単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性	
			千円		5,342		446		500		500	縮小	
今後の方針		縮小	拡大・縮小・廃止の理由		スマートフォンの普及等により情報伝達手段が多様化されてきているため。								

令和 6 年度 事業評価						参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価			
5	4	3	2	1		目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開 ・透明性	評価・見直し	相互変革	合計		
と て も で き た	そ れ な り に も な か つ た	ど ち ら で も な い	あ ま り で き な か つ た	全 然 で き な か つ た		協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4								
						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3								
						協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3								
						お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3								
						協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3								
						事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PCDAサイクル)を行ったか。	3								
						協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3								
						合 計					22	0			
総合評価						A評価	B評価	C評価	D評価	E評価					
						35~26	25~21	20~16	15~11	10以下					

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	6年度は実施なし	
協働することで感じた課題や今後の方向性	在来地区での有線放送設備導入が、まばらであること、また、情報伝達手段の多様化が進んでいるため、事業廃止を検討すべきである。	整備している自治会には、補助を続けてほしい。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書														
通番	事務事業名称	青少年健全育成事業					所管部署	課名 生涯学習課						
(ア) 総合計画上の位置づけ														
施策	番号	施策名			展開方向	番号	展開方向名							
	3-2	青少年の健全育成				1	健全な成長を育む社会環境づくりの推進							
(イ) 実施内容・体制														
協働する相手		青少年健全育成協議会委員												
協働実施手法		1-2 補助金												
具体的な対象	香芝警察少年補導員広陵(東・西)ブロック(補助団体)・奈良県青少年指導員・広陵町主任児童委員・幼保子ども園長・小中学校長・教職員・PTAなどからなる青少年健全育成協議会委員						⑨対象者の母数	55						
目的・期待成果	将来のまちづくりの担い手となる子どもが、強い自覚と自信を持って明るく健やかに成長していけるまちを目指すべく、下校時の見守り活動や各種巡視活動など公益的な活動を支援する。													
事業内容	(1) 青少年に関する相談 (2) 青少年の健全育成に関する啓発活動 (3) 青少年の健全育成に関する指導 (4) 青少年の生活実態に関する調査及び統計 (5) その他目的達成に必要な活動													
(ウ) 事業費														
事業費(決算(見込)額・予算額)				単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性	
				千円		41		78		315		166	維持	
今後の方針		継続			拡大・縮小・廃止の理由									

令和 6 年度 事業評価						参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価			
5	4	3	2	1		目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開・透明性	評価・見直し	相互変革	合計	総合評価	
					とてもできなかった	それなりにできた	どちらでもなかった	あまりできなかった	全然できなかった						
						協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。			
						4	3	4	3	3	3	3	23	B	
						4	4	3	3	3	3	3	23	B	
						A評価 35~26	B評価 25~21	C評価 20~16	D評価 15~11	E評価 10以下					

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	青少年が犯罪に巻き込まれないよう町全体で見守る体制が執られている。	メンバーの高齢化が懸念される場所であるが、なり手が無い。
協働することで感じた課題や今後の方向性	青少年の非行の現状が多様化、複雑化する中で、いかに効果的な活動を行うかを参画していきたい。	協議会自体がもっと自主性をもって活動できるように考えたい。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書														
通番	事務事業名称	広陵町PTA連絡協議会事業補助金				所管部署	課名 生涯学習課							
(ア) 総合計画上の位置づけ														
施策	番号	施策名			展開方向	番号	展開方向名							
	3-2	青少年の健全育成				1	健全な成長を育む社会環境づくりの推進							
(イ) 実施内容・体制														
協働する相手		PTA会員												
協働実施手法		1-2 補助金												
具体的な対象	町内の幼稚園・こども園・小学校・中学校のPTA						⑨対象者の母数	11団体						
目的・期待	町内幼稚園・小学校・中学校教育振興及び園児・児童・生徒の福祉を増進するため、各单位PTA相互の連絡調整並びに親睦を図り研究することを目的とする。													
事業内容	PTA指導者研修会、夏季会員研修会、PTA会員研修会、会長会議等													
(ウ) 事業費														
事業費(決算(見込)額・予算額)				単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性	
				千円		81		81		81		81	維持	
今後の方針		継続			拡大・縮小・廃止の理由									

令和 6 年度 事業評価						参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価		
5	4	3	2	1		目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開・透明性	評価・見直し	相互変革	合計	総合評価
					とでもできた	それなりにできた	どちらでもない	あまりできなかった	全然できなかった					
						3	4	4	3	2	2	2	20	C
						3	4	4	3	2	2	2	21	B
						35~26	25~21	20~16	15~11	10以下				

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	教師・保護者が協力し園児・児童生徒の学校・家庭における教育活動のための学びを提供することでより充実した活動内容を行っていただいた。	PTA研修については意義を感じている一方、行政主導の傾向があるため、相互理解を深めていきたい。
協働することで感じた課題や今後の方向性	参画と協働の原則に基づいた評価について、相互理解に努めていきたい。	参加してみるとすごく有意義な機会であるので、広く参加者を呼び込めるように工夫が必要と考える。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	事務事業名称	子ども会連合会事業補助金	所管部署	課名
				生涯学習課

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
5-2	地域コミュニティの育成		1	コミュニティ活動の活性化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	子ども会会員
協働実施手法	1-2 補助金

具体的な対象	広陵町子ども会連合会に属する町内の子ども会	⑨対象者の母数	21団体
--------	-----------------------	---------	------

目的・期待	町内子ども会21団体が相互の連絡連携を図り、子ども会の活動を充実し、子ども達の健全な育成を図ることを目的とする。
-------	--

事業内容	令和5年度広陵町子ども会連合会 総会、広陵町子ども会連合会KYT研修 令和5年度奈良県子ども会連合会 総会、クラブ講師養成講習会 奈良県子ども会連合会リーダー研修会、近畿地区子ども会大会等
------	--

(ウ) 事業費

事業費(決算(見込)額・予算額)	単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性
	千円		266		256		192		269	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 6 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1				
とてもできた	それなりにできた	どちらでもない	あまりできなかった	全然できなかった	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	4
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	4
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	3
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	3
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	3
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	3
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	3
合計						23	23	
総合評価		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	B	B
		35~26	25~21	20~16	15~11	10以下		

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	子どもたちの健やかな成長発達に大切な活動を楽しく行っていただけた。	毎年役員が替わるため、行政のサポートがあるからこそできていると思う。
協働することで感じた課題や今後の方向性	連合会としての活動をより充実させ、相互の連絡連携を促進していきたい。	毎年役員が替わるため、経験の蓄積ができない分、行政に頼る部分が多いが、協働してできること、引継できる部分はしっかりしていきたい。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書														
通番	事務事業 名称	文化協会補助金事業					所管部 署	課名 生涯学習課						
(ア) 総合計画上の位置づけ														
施策	番号	施策名			展開 方向	番号	展開方向名							
	5-4	文化芸術の振興と文化財の保存・活用				1	文化芸術の振興							
(イ) 実施内容・体制														
協働する相手		文化協会会員												
協働実施手法		1-2 補助金												
具 体 的 な 対 象	文化協会に属する絵画部、写真部、書道部、和服リフォーム部の会員						⑨ 母 数 の 対 象 者 の 数	62人						
目 的 ・ 期 待	広陵町における文化芸術事業の発展に寄与するとともに、会員相互の資質向上を図ることを目的とする。													
事 業 内 容	広陵町文化祭での共催、庁舎及び関連施設への作品展示、エコールマミでの作品展示、各部の研修会実施等													
(ウ) 事業費														
事業費(決算(見込)額・予算額)				単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性	
				千円		183		183		183		120	縮小	
今後の方針		縮小			拡大・縮小・廃止の理由									

令和 6 年度 事業評価						参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価		協働する 相手の評価					
5	4	3	2	1		目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開 ・透明性	評価・見直し	相互変革	合計		総合評価			
と て も で き た	そ れ な り に で き た	ど ち ら で も な い	あ ま り で き な か つ た	全 然 で き な か つ た		協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	4	4	3	3	2	24	B	4	B		
						お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	4	4	3	3	2	23	4	B			
						協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	4	4	3	3	2	23	4	B			
						お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	3	3	3	3	2	23	3	B			
						協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	3	3	3	3	2	23	4	B			
						事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	3	3	3	3	2	23	3	B			
						協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
						合計						24	23					
						総合評価						A評価 35~26	B評価 25~21	C評価 20~16	D評価 15~11	E評価 10以下		

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	町の文化芸術活動を主体となって行うとともに、町民が芸術に触れるきっかけを創出していただいている。	文化芸術の発展には行政のサポートが不可欠であり、文化総合会は大変有意義であったが、高齢化が進み開催できないのが現状である。
協働することで感じた課題や今後の方向性	会員の高齢化、会員数の減少により芸術活動に対する指導者の育成・確保が困難な状況にある。若い世代にも広く知ってもらうために、参画と協働について相互理解が必要。その上で役割を決めていく必要がある。	指導者、後継者の確保が困難である。協会の存続及び発展につながる活動をしていきたい。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書														
通番		事務事業名称	二十歳のつどい事業(実行委員会)				所管部署	課名 生涯学習課						
(ア) 総合計画上の位置づけ														
施策	番号	施策名				展開方向	番号	展開方向名						
	3-2	青少年の健全育成					1	健全な成長を育む社会環境づくりの推進						
(イ) 実施内容・体制														
協働する相手		二十歳を迎える町民												
協働実施手法		2-3 実行委員会												
具体的な対象	当該年度内に二十歳を迎える町民						⑨対象者の母数	405人						
目的・期待	二十歳という節目の年に新たな想いを感じることでできる式典となるよう、実行委員会による自主的な運営を行った。 参加者の実績 ●校区 ●対象者 ●参加者 ●参加率 広陵中学校区 218人 174人 79.8% 真美ヶ丘中学校区 187人 143人 76.5% 参加者へのWEBアンケートでは、77.4%の新成人が「成人としての思いを新たに感じる事ができた」と回答した。													
事業内容	式典当日のアトラクションの企画・司会進行、二十歳の誓い、記念品授与等を参加者を代表して行った。 また、記念品として選定したボールペンのデザインや靴下組合から寄贈された靴下のデザインを考えた。													
(ウ) 事業費														
事業費(決算(見込)額・予算額)				単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性	
				千円		794		816		717		905	維持	
今後の方針		継続			拡大・縮小・廃止の理由									

令和 6 年度 事業評価					参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価		
5	4	3	2	1	目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開・透明性	評価・見直し	相互変革	合計	総合評価
とてもできた	それなりにできた	どちらでもない	あまりできなかった	全然できなかった	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	4
					4	4	4	4	4	4	4		
					4	4	4	4	4	4	4		
					4	4	4	4	4	4	4		
					3	3	3	3	3	3	3		
					4	4	4	4	4	4	4		
合計												27	27
総合評価					A評価	B評価	C評価	D評価	E評価			A	A
					35~26	25~21	20~16	15~11	10以下				

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	当事者目線で式典を作り上げることで、参加者の思い出に残る式典を開催できたとともに、二十歳となったことについて自覚を新たにできた。	行政主体の式典ではなく、自分たちが作り上げることで、世代にあった内容にできた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今後も実行委員会による企画立案を行い、その年のカラーが出る式典を開催したい。	1度きりのことなので、経験を活かすことができない。もう少し記念品をよくしたい。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書														
通番	事務事業名称	社会教育委員会議					所管部署	課名 生涯学習課						
(ア) 総合計画上の位置づけ														
施策	番号	施策名			展開方向	番号	展開方向名							
	5-1	生涯学習の推進				1	住民一人ひとりが学ぶ機会の充実							
(イ) 実施内容・体制														
協働する相手		社会教育委員												
協働実施手法		3-1 審議会、策定委員会等												
具体的な対象	社会教育関係者、学識経験者、家庭教育関係者からなる委員会						⑨対象者の母数	6人						
目的・期待	社会教育に関し教育委員会に助言することを目的とする。社会教育分野において、さまざまな立場から助言をいただくことで事業の見直し、新設を行うことができた。													
事業内容	年3回の社会教育委員会議の開催のほか、世代間交流事業の開催・町内に関わる(祭り・民話等)冊子作成事業、文化祭への協力をを行う。													
(ウ) 事業費														
事業費(決算(見込)額・予算額)				単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性	
				千円		134		253		510		187	維持	
今後の方針		継続			拡大・縮小・廃止の理由									

令和 6 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価	
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	4
とても できた	それ なりに できた	あ まり で き な か つ た	全 然 で き な か つ た	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	3	
				自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	4	
				相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	2	3	
				情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	4	
				評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	3	
				相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	4	
合 計					21	25		
総合評価		A評価 35~26	B評価 25~21	C評価 20~16	D評価 15~11	E評価 10以下	B	B

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	社会教育に関して、さまざまな視点で意見をいただくことで事業の見直しが行えた。また、主催事業である世代間交流の開催で、関わり合いが少ない世代同士で共に学びあえる場の提供ができた。	行政とともに社会教育の必要性を考え住民に還元できる機会を設けることができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今後も社会教育に関する助言をいただくとともに、世代間交流事業については社会教育委員が主体となっていたら連携していきたい。	行政における社会教育の在り方や、対象の広さから事業の難しさがあるが、学校教育では育めないものを行政とともに行えれば考える。

令和 6 年度 参画と協働施策実施状況報告書														
通番	事務事業名称	令和5年度 広陵町スポーツ協会補助金					所管部署	課名 スポーツ振興課						
(ア) 総合計画上の位置づけ														
施策	番号	施策名				展開方向	番号	展開方向名						
	5-3	スポーツの振興					1	多様なスポーツ活動の善及促進						
(イ) 実施内容・体制														
協働する相手		広陵町在住・在勤者												
協働実施手法		2-4 普及・啓発												
具体的な協働者	広陵町在住・在勤の老若男女						⑨ 協働者の母数	約35,000人						
目的・期待	広陵町民のスポーツの発展と普及を図り、スポーツ精神の振興に寄与する。													
事業内容	生涯スポーツの啓発をおこない、健康づくりやスポーツの楽しさを広め、地域スポーツの促進に努める。													
(ウ) 事業費														
事業費(決算(見込)額・予算額)				単位	R	4	R	5	R	6	R	7	今後の事業費の方向性	
				千円		4,050		4,050		4,050		4,050	(ブルダウン選択)	
今後の方針		継続			拡大・縮小・廃止の理由									

令和 6 年度 事業評価						参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価		協働する相手の評価			
5	4	3	2	1		目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開・透明性	評価・見直し	相互変革	合計			
					とでもできた	それなりにできた	どちらでもない	あまりできなかった	全然できなかった							
						協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。				
						合 計										
総合評価						A評価	B評価	C評価	D評価	E評価						
						35~26	25~21	20~16	15~11	10以下			21	22	B	B

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	スポーツフェスティバルやニュースポーツイベントなど、参加者の意見やアドバイスを取り入れて、運営をおこなうことができた。	スポーツフェスティバルは4回目を迎えたということで、広陵町ならではのスポーツや事業があれば良いのではないかと。
協働することで感じた課題や今後の方向性	協働する相手が多いと、事業の方向性を定めていくのも簡単ではないと感じた。	様々な事業があると思うが、適正に補助金をつけて運営していくことは不可欠。

令和 7 年度 参画と協働施策実施状況報告書													
通番	事務事業名称	広陵町男女共同参画審議会				所管部署	課名 協働のまちづくり推進課						
(ア) 総合計画上の位置づけ													
施策	番号	施策名			展開方向	番号	展開方向名						
	5-5	男女共同参画の推進				3	男女共同参画に対する理解と関心の推進						
(イ) 実施内容・体制													
協働する相手		広陵町男女共同参画審議会委員											
協働実施手法		3-1 審議会、策定委員会等											
協働者	具体的な協働者	学識経験者、町の関係団体の代表者、公募委員などからなる広陵町男女共同参画審議会委員					⑨ 協働者の母数	15人					
期待成果	目的	公募による委員を含む審議会を開催し、さまざまな分野及び立場から選出された委員からの意見を、男女共同参画社会づくりの施策に反映することを目的とする。令和4年度に広陵町男女共同参画後期行動計画を策定したことから、町や関係団体を含めさまざまな主体が連携しながら男女共同参画やジェンダー平等を推進する。											
事業内容	内容	過年度の男女共同参画事業の進捗評価、男女共同参画やジェンダー平等への提言など ※審議会は年2回を想定											
(ウ) 事業費													
事業費(決算(見込)額・予算額)				単位	R	5	R	6	R	7	R	8	今後の事業費の方向性
				千円		0		144		60		144	維持
今後の方針	拡大 拡大・縮小・廃止の理由 行動計画に基づき、男女共同参画やジェンダー平等を推進する。												
令和 7 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目										行政の自己評価	協働する相手の自己評価	
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。					4	4	
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。					4	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。					3	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。					4	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。					4	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。					4	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。					4	4	
合 計											27	21	
総合評価		A評価		B評価		C評価		D評価		E評価		A	B
		35~26		25~21		20~16		15~11		10以下			
(エ) 協働する相手の評価について													
誰に評価してもらったか		代表として副会長1人に評価をいただいた。											

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	男女共同参画に関して専門的な知見を学ぶことができることともに、子ども・子育てに関する「地域女性活躍推進事業」を連携して行うことができた。	さまざまな立場の委員から、広陵町の現状を出し合い、今後の本町の男女共同参画のまちづくりに向けて、真摯に意見交換が出来、パートナーとしての関係を築くことが出来た。
協働することで感じた課題や今後の方向性	男女共同参画や女性活躍事業について関心がある方に情報提供や情報共有をすることともに、連携事業を推進していきたい。	出し合った意見を融合できる話し合いを深めることにおいて不十分であり、今後は、情報発信した際に出た町民の思いを踏まえ、相互理解や施策に反映出来るような話し合いをする場や機会の設定が必要であると考えている。